

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

『三絆完遂 夢成就』…学習・クラブ・行事の三つの絆を大切にし、バランスの良い人間形成に努め、生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす。

- 1 これからの社会を生き抜く「強さ」と「優しさ」を併せ持つ幹の太い生徒、そして高い目標を掲げ、その目標に向けて日々努力する生徒を育成する。
- 2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって特色づくりに努め、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
- 3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む。

## 2 中期的目標

## 1 幹の太い生徒の育成

幹＝人間力（挨拶、忍耐力、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、成功体験、自尊感情、自立心）

- (1) 分掌、学年、委員会が連携し、さまざまな教育活動を通して、成功体験を積み重ね、自尊感情の高揚を図り、人間力を育成する。
  - ア 生活規律の確立に取り組むことにより、高い規範意識を持ち、場を理解し、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
  - イ 人権教育を推進し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安心・安全な学校づくりに努める。
  - ウ 特別講演会を開催することにより、自らの将来を主体的に考える意識を醸成する。また、学校行事やクラブ活動等を含め校内外の様々な教育活動に積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(H28:80%)「将来の生き方について考える」(H28:82%)「学校満足度」(H28:79%)を毎年2%ずつ引き上げる。また、「部活動に積極的に参加」の項目を毎年90%(H28:89%)以上とする。

## 2 確かな学力の育成

- (1) 学習意欲の向上を図り、自己実現をめざした学力を育成する。
  - ア 授業規律を確立し、授業への集中力を高め、学習に向かう意識を向上させる。
  - イ 全学年で学習意欲を向上させ、自学自習の習慣の確立をめざした取り組みを推進する。
  - ウ 生徒の現状を把握し、講習や補習等を組織的、計画的に実施する。
 

※卒業時アンケートによる進路実現への満足度(81%)を平成31年には85%以上にする。
- (2) 授業改革・改善に積極的に取り組み、授業の質をさらに高める
  - ア 習熟度別・進路別少人数授業を拡充し、きめ細かな授業を展開する。また、授業見学や公開授業などにより、さらに質の高い授業をめざす。
  - イ 平成27年度学校経営推進費事業とPTA・同窓会の支援によるICTの活用及びアクティブ・ラーニングについての研修、研究を進める。また、様々な教育ツールを活用することにより、生徒の興味・関心をさらに引き出す授業を展開する。
  - ウ 授業アンケート・学校教育自己診断等を実施、分析し、組織的に授業力の向上を図る。
 

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」(H28:61%)「教え方の工夫」(66%)の項目を毎年2%ずつ引き上げる。

※授業アンケートの「興味・関心を持つことができた」(H28:2.92)「知識や技能が身に付いた」(2.97)の項目を平成31年には3.10以上にする。

## 3 特色づくりの推進による学校力の向上

- (1) 近年取り組んできた事業をさらに充実し、学校力を向上させることにより、南河内の普通科改革校としての地歩を固める。
  - ア eコース(esperanza:希望、education:教育)における取組みを拡充し、高い進学意識をもつ生徒を育成する。
  - イ 実用英語検定資格を取得することにより、進路実現に結びつく力及びグローバル社会を生きる基礎力を養成する。
  - ウ 国際交流および国際理解教育を推進することにより、異文化理解と国際感覚を高めるとともに、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。
  - オ エコキャップ運動などを通して環境問題への理解を深め、国際貢献に取り組む生徒を育成する。
 

※生徒向け学校教育自己診断の「学校満足度」(H28:79%)を毎年2%ずつ引き上げ、平成31年度には85%以上をめざす。
- (2) 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感・自尊感情を醸成する。
  - ア 生徒主体の河南講座及び運動系・文化系クラブによる中学生との交流や地域の公演活動等への積極的参加など地域交流を拡充する。
  - イ 学校だより等のwebページ掲載により地域及び関係機関等への情報発信に努める。
- (3) 防災マニュアルを充実するとともに安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。
 

※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を理解している」(H28:73%)の項目を平成31年度には79%以上にする。

## 4 生徒支援の充実

- (1) 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。
  - ア 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有化と組織的な対応を促進する。
 

※生徒向け学校教育自己診断の「相談に応じてくれる先生がいる」(H28:52%)の項目を平成31年度には58%以上にする。
- (2) 3年間を見通した進路指導計画により、系統的なキャリア教育体制を確立する。
 

※生徒向け学校教育自己診断の「進路情報をよく知らせてくれる」(H28:78%)の項目を平成31年度には84%以上にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>昨年度比2%以上の変動をみると、生徒結果で25項目中13項目が向上、1項目が減少。保護者結果では20項目で11項目向上、1項目が減少という結果であった。</p> <p><b>【学校生活について】</b> 生徒の「学校へ行くのが楽しい(81%:1%向上)」、保護者の「学校の雰囲気が高く、生徒がいきいきしている(90%:1%向上)」は高い肯定率である。ただ、生徒の「学校生活の満足度(78%:1%減少)」が減少していることを踏まえ、生徒の声に耳を傾けながら教育活動を展開する。</p> <p><b>【学習について】</b> 生徒は「授業はわかりやすい(68%:7%向上)」、「教え方に工夫がなされている(71%:5%向上)」、「授業進度は適切である(73%:3%向上)」、「補習や講習が充実している(64%:3%向上)」と全ての項目で向上しているが、まだ3割の生徒は「そうではない」と考えている。また、3年生の「講習が充実(52%)」の項目と「宿題・課題(51%)」の項目では約半数が否定的である。生徒のニーズを把握し、授業アンケートなども踏まえ、さらなる授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p><b>【教育相談について】</b> 生徒の「相談に応じてくれる先生がいる(54%:2%向上)」「担任以外で気軽に相談できる先生がいる(34%:4%向上)」したが、まだまだ肯定的回答が低い。特に1年生では肯定率が低く(それぞれ46%と22%)、「わからない」と3割の生徒が答えている。支援委員会を中心に現状に即した教育相談体制の充実及び周知をさらに進める。</p> <p><b>【進路指導について】</b> 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある(87%:5%向上)」「進路についての情報を良く知らせてくれる(84%:7%向上)」と肯定率が向上している。高い目的意識を持って進路実現が図れるよう、丁寧な進路指導を心掛けていく。</p> <p><b>【人権教育等について】</b> 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある(70%)」の項目が5%減少した。啓発運動の推進や人権研修内容等の検討を行い、さらなる人権意識の向上を図る。</p>	<p>第1回(平成29年5月24日) <b>【平成29年度学校経営計画について】</b> 中期目標を3項目から4項目と細分化し、目標を明確にしている。河南高校は地元の支持が強いので、それに応える取組みを期待する。生徒の心のケアが大切、カウンセリング体制の充実努めてください。また、SNS講習会の実施は良いことである。</p> <p><b>【卒業生の進路状況について】</b> 昨年度より関関同立や近大の合格者は減少したが、実進学者はほぼ同数である。また、看護医療系への進学者が大幅増。特徴として推薦より一般入試まで頑張る生徒が増えている。目的意識をもって進路実現をめざす生徒が増えているのは良いことである。</p> <p>第2回(平成29年10月19日) <b>【第1回授業アンケートについて】</b> アンケートを基に授業改善の成果が現れているのは素晴らしい。今後もより良い授業をめざして、教員全員で頑張ってください。</p> <p><b>【学力調査概要及び高校生活と健康意識調査について】</b> 経年変化で見ると生徒の学力は少しずつではあるが向上していることがわかる。経済的な状況からも公立高校の人気は高いです。生徒に学力をはじめとしたしっかりとした力が身に付くような取組みを今後も継続されることを願っています。</p> <p><b>【自治会役員生徒との懇談より】</b> 河南高校の特色ある学校行事が、さらに発展することを期待しています。</p> <p>第3回(平成30年1月24日) <b>【第2回授業アンケートについて】</b> 個人平均の最低最高ともに向上、極端に低い者もない。校内平均も第1回より向上。生徒の質問項目8・9において近年で最も高いなど、先生方の取組みの成果が現れている。今後も取組みを続けられることを願っている。</p> <p><b>【学校教育自己診断結果について】</b> 生徒、保護者とも前年度よりほとんどの項目で肯定度が向上、一年間の取組みの成果である。特に授業関係で改善傾向である。ただ、読書習慣がない生徒が多いのは気になる。新大学入試を考えると読書習慣をつける方法を考えなければならない。</p> <p><b>【校則について】</b> この内容で問題ないと判断する。</p> <p><b>【平成30年度学校経営計画について】</b> 次年度は学習指導要領の改訂及び新大学入試改革にともなう取組みを推進されたい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幹 の 太 い 生 徒 の 育 成	(1) 人間力の育成 ア 生活規律の確立 イ 人権教育の推進 ウ 特別講演会の開催及び課外活動の充実	(1) ア・自治会とも連携しながら全教職員で挨拶の励行や生活規律の確立に努める。 イ・人権研修を充実し、いじめや差別をしない、させない意識を醸成する。 ウ・世界で活躍している方を招聘。「夢をあきらめない」をテーマに講演会を実施し、自らの将来を主体的に考える生徒を育成する。 ・学校行事やクラブ活動等において、生徒の主体的な取組みを引きだし、自主性、忍耐力、集中力、表現力、協調性、豊かな感性などを育成する。	(1) ア・遅刻件数2,000件以下(H28:2080) イ・生徒向け学校教育自己診断の「人権の大切さについて学ぶ機会がある(H28:75%)」の項目77%以上 ウ・特別講演会後のアンケートの肯定的回答90%以上を維持する(H28:98%) ・生徒向け学校教育自己診断の部活動や学校行事の肯定度90%以上(H28:部活動89%、学校行事89%)	(1) ア・遅刻件数は2208件と目標は達成できなかった。(△) 皆勤の生徒は増加しているにも関わらず、遅刻・欠席総数が増加している。不登校傾向の生徒への対応を今後考えなければならない。 イ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある70%と5%減少。(△) ウ・99.6%が肯定的回答。90.2%が人生に影響を与えるものであったと回答している。(◎) ・部活動は92%と3%向上。3年生での加入率が増加している。(◎) 学校行事は85%と4%減少した。(△)

<p>2 確かな学力の育成</p>	<p>(1) 学習意欲の向上 ア 授業規律の確立 イ 学習意欲向上をめざす取り組み ウ 多様な取り組みによる学習時間の増加  (2) 充実した質の高い授業の実践 ア 習熟度別・進路別少人数授業の拡充及び授業公開・研究協議の充実 イ ICT 機器の活用推進及びアクティブラーニングについての研究推進</p>	<p>(1) ア・「授業が最大の生徒指導」の意識をもち、ベル着・机上整理・授業集中を徹底する。生徒集会など機会ある毎に注意喚起を行い、意識の向上を図る。 イ・各学年において生徒の実態に即した取り組み(勉強合宿や学習デー(仮称)など)を推進し、学習意欲の向上を図る。 ・「自発学習 0 時間日をなくそう」を啓発し、自学自習の意識の確立を図る。 ウ 自習室の活用、平日の講習補習、サポート講習等を充実し、学習時間の増加をめざす。 (2) ア・数学Ⅱ(2年生5クラス)、英語Ⅱと英BE(1年次)において、少人数展開授業を実施し、苦手意識のある生徒を減少させる。 ・5月に保護者対象の授業公開を実施する。また、11月に行っている教員間の公開授業(地域等へも周知)により授業力の向上を図る。 イ・教員向けICT研修を充実し、活用教員を増やすことにより、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。 ・生徒を鍛え、伸ばす授業をめざして、アクティブ・ラーニングに関する研究を進める。</p>	<p>(1) ア・生徒の授業アンケート質問1「必要な予習や復習ができている(H28:2.75)」と質問2「授業中は集中して取り組んでいる(3.27)」の学校平均をそれぞれ0.05ポイント向上。 イ・高校生活と健康意識調査による、授業以外の学習時間30分以内の生徒を30%以下にする(H29新規項目、H28は家庭学習時間30分以内の生徒39.3%) ウ・生徒向け学校教育自己診断の「授業以外の補習や講習が充実している。(H28:62%)」の項目を2%向上。 (2) ア・生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすい(H28:61%)」「教え方の工夫(66%)」「進度が適切(71%)」の項目2%向上。 ・教員向け学校教育自己診断の「教育活動について教職員で日常的に話し合っている(H28:81%)」の項目2%向上。 イ・教員のICT機器活用率90%以上を維持する(H28:92.9%) ・生徒向け学校教育自己診断の「教え方の工夫(H28:66%)」の項目2%向上。</p>	<p>(1) ア・質問1は2.85であった。(◎) 質問2は3.30に上昇したが、目標には少し届かなかった。(○) 生徒の興味・関心を引き出す授業をさらに心掛けていく。 イ・学習時間30分以内は32.5%となったが、2年生になると約42%が30分以内と答えているのは大きな課題である。クラブ活動等との両立を図る取り組みを進める。(△) ウ・肯定的回答が64%に向上した。(◎) しかし、2年生が72%であるのに対し、3年生は52%である。生徒のニーズを再確認する。 (2) ア・「授業はわかりやすい(68%:7%向上)」、「教え方の工夫(71%:5%向上)」、「進度は適切(73%:2%向上)」と全ての項目で目標を上回っている。(◎) ・86%と5%向上している。職員室等が日常的に気軽に相談できる場となるよう一層努めていきたい。(◎) イ・教員のICT機器活用率は、88.5%と少し減少した。(△) ・「教え方の工夫71%」と5%向上している。(◎) ・教員向けアクティブ・ラーニングの研修を実施した。</p>
<p>3 特色づくりの推進による学校力の向上</p>	<p>(1) 特色づくりの取り組み充実 ア e コースの充実及び大学連携授業の実施 イ 資格取得の推進 ウ 国際交流および国際理解教育の推進 エ 国際貢献に取り組む生徒の育成  (2) 地域および他校種連携の拡充 ア 地域連携および中高交流の進展  (3) 災害に強い学校づくり</p>	<p>(1) ア・eコースにおける体験学習・高大連携・発展学習の充実を図る。 ・理数医療系の大阪府立大学との連携授業、2年生全員による大阪大谷大学の1日授業体験の実施により、進学意識の向上を図る。 イ・実用英語検定1・2年生は全員受験とし、3年生未取得者には受検を推奨する。 ウ・国際交流委員会を中心に、交換留学や海外からの訪問団を積極的に受け入れる。また、海外語学研修等も視野に入れ、国際理解教育を推進し、グローバル人材の育成に努める。 エ・環境教育の一環としてエコキャップ運動を継続し、環境問題への理解を深め、ポリオワクチンの供給などを通して、国際貢献に取り組む生徒を育成する。 (2) ア・河南講座やクラブ活動による中高交流等において、生徒主体の地域連携の強化を図る。 (3) ・南海トラフ大地震を想定した避難訓練マニュアル、大地震発生時アクションカード、生徒引き渡し概要を充実させる。</p>	<p>(1) ア・eコース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者58%以上(H28:54.3%) ・卒業時アンケートによる進路実現満足度83%以上。(H28:81%) イ・英検準2級以上の合格者100人以上を維持する(H28:116人) ウ・生徒向け学校教育自己診断の国際理解教育に関する項目の肯定度80%。(H29新規項目) エ・ユニセフと連携し30人以上のポリオワクチンの供給に貢献する。(H28:30人分) (2) ア・クラブによる中高交流10クラブ以上を維持する。(H28:11クラブ119回) (3) ・生徒向け学校教育自己診断の「災害時の行動を理解している(H28:73%)」の項目を75%以上。</p>	<p>(1) ア・eコース生の教育系と国公立の進学希望者は62.5%である。(◎) ・進路実現の満足度は、83.9%である。(◎) イ・英検2級19名、準2級184名が合格している。(◎) ウ・国際理解教育に関する項目の肯定度は81%であった。(◎) エ・周知不足等もあり、15人分しか集めることができなかった。(△) 生徒保健委員会や生徒自治会との連携を密にしながら取り組みを進める。 (2) ア・12月段階で11クラブ115回の中高交流を行っている。(◎) (3) ・災害時の行動を理解している生徒は前年度と同じく73%であり、目標には届かなかった。防災避難訓練、アクションカードをさらに充実させる必要性がある。(△)</p>
<p>4 生徒支援の充実</p>	<p>(1) 教育相談体制の充実 ア 生徒情報の共有化と組織的な対応  (2) キャリア教育体制の確立</p>	<p>(1) ア・支援を必要とする生徒のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有化と組織的な対応を促進する。 ・支援委員会を中心に、本校の現状にあった教育相談体制の構築をめざす。 (2) ・3年間を見通した進路指導計画により、的確な進路指導を行い、生徒の自己実現を支援する。 ・教育産業のシステム活用についての研究を進める。</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断の「相談に応じてくれる先生がいる(H28:52%)」を2%向上  (2) ・生徒向け学校教育自己診断の「進路の情報をよく知らせてくれる(H28:78%)」を2%向上。</p>	<p>(1) ア・「相談に応じてくれる先生がいる」は54%と2%向上した。(◎) 今後もSCや相談室等についての周知をさらに徹底し、機能の充実に努める。  (2) ・84%と6%向上。さらに丁寧な進路指導に努めていく。(◎)</p>